

flamme

フランメ

ワンダフルいわてライフ情報紙 「flamme」はドイツ語で「ほのお」を表わします。
盛岡ガス株式会社 ホームページ <http://www.morioka-gas.co.jp>

第 5 号



南部利直の命により振り出された端岩「烏帽子岩」(えぼしいわ)



「岩手公園物語」

盛岡 Moriooka シアワセ歳事記

城下盛岡のシンボル、今年開園百年を迎える「岩手公園」。お城があった頃を想像して、御門から天守閣まで、冬の散歩をしてみましょう。

今年、平成十八年は盛岡市にとって、記念すべき事が重なる節目の年です。一月には玉山村との合併。その玉山村浪民出身の石川啄木は生誕百二十年、盛岡で青春時代を送った宮沢賢治は生誕百十年を迎えます。加えて、盛岡出身の総理大臣、原敬は生誕百五十年。そして、これらの先人たちの文学碑や記念碑の建つ盛岡城跡が「岩手公園」として開闢してから、百年目の年なのです。今回は、この美しい石垣とその周辺を散策してみましよう。

築城され、三百年近くの間、南部の中心であった盛岡城も、江戸時代の終焉により、明治七年全国の多くの城と共に石垣、土塁などを残して解体されました。その後、明治三十九年(一九〇六)、盛岡城跡は「岩手公園」として整備され、以後市民に親しまれています。

ところで、盛岡城の入り口ってどこ？現在の県庁前、櫻山神社の参道が、その正式な入り口と考えていいようです。

小さな店が軒を並べる参道の商店街。「じゃじゃ麺」発祥の店「白龍」の斜め向かいに、とてもシックな外観のお店がありました。雑貨の店「ハトル」。なんとも不思議な響きの店名です。「トルコ語で「記憶」という意味です。」とオーナーの高橋さん。国内外のアッドストックを集めているせいか、ただ懐かしいだけでなく、時空を超えたキュートさが店内に満ちています。「この街が好き。街に引き寄せられ、この店にも来てくれたら嬉しい。」50'sから70's風なアekセサリー、Tシャツ、食器など、オーナーのセンスの

光る品揃えにファンが多いと言うのもなづけます。

大手先の「大手御門」、そして参道入り口あたりにあった「綱御門」を経て、いよいよ内堀の中に入るのが「鳩御門」。現在、櫻山神社の拝殿に向かって右手の鳥居のあたりにあったと思われまます。

冬の城跡は、粉砂糖を振ったように雪がふんわり積もった石垣が、寒さの中にも凛とした美しさを見せています。敵の侵入を防ぐ直角の「枳形」と呼ばれる坂道の先には「瓦御門」という二階建ての門があったと言われています。そこを上ると「三ノ丸」。



■Hatir (ハトル)
営業時間：正午～20時/火曜日定休
内丸4-7 電話：019-622-0582

右：石垣の「笑い積み」。
 中：「御本丸」南部公銅像の台座と御三階のあったあたり。
 左：「新山舟橋」に使われていたというひょうたん型の鎖。



本丸には、盛岡城跡が岩手公園になった時に整備された階段が取り付けられています。その手すりに、不思議なひょう

この「御本丸」の南東の端に一段高くなっていくのが天守閣跡。盛岡城の場合、その姿が三階建てだったことから「御三階」と呼ばれ、下の「腰曲輪」の大櫓の二階を併せ、遠目には五階建てに見えたと言います。この天守で殿様が見た景色はどんなものだったのでしょうか。中津川の流れ、そして活気ある河

この「御本丸」の南東の端に一段高くなっていくのが天守閣跡。盛岡城の場合、その姿が三階建てだったことから「御三階」と呼ばれ、下の「腰曲輪」の大櫓の二階を併せ、遠目には五階建てに見えたと言います。この天守で殿様が見た景色はどんなものだったのでしょうか。中津川の流れ、そして活気ある河

櫻山神社に祀られる「烏帽子石」をのぞいてみましょう。盛岡城は、天然の地形を活かし、小高い丘を切り崩して作られたと言われています。この烏帽子の形をした巨石もその中から掘り出されたもの。「車御門」跡を上がると「二ノ丸」。啄木の歌碑、新渡戸稲造の記念碑があるあたりです。この二ノ丸を支える石垣の中に不思議な石を見つけました。周りの四角な石とは違う楕円形の石が一つ。重々しい石垣の中でそこだけが口を大きく開けて笑っているよう。その名も「笑い積み」と呼ばれる、石垣職人の遊び心が生んだ、盛岡城七不思議の一つです。

うたん型の鎖が。なんとこの鎖、藩政時代に北上川に架かっていた「新山舟橋」(現在の明治橋の近く)の、舟と舟を結んだ鎖だと伝えられています。

身体がだいぶ冷えてしまいました。温かいお茶でも欲しいところ。公園下に降りて行くと、菜園に「中国茶館 時の形見」という中国茶の専門店があります。「温まるお茶は？」「びつたりのお茶がありますよ。」「北半武夷岩茶」というお茶です。代謝が良くなって温まるだけでなく、香りと味のバランスも良いお茶なんです。「オーナーの千葉さんが中国茶独特の茶器から美しい手さばきで入れてくれたお茶は、飲んでいるうちに、びつくりするほど身体の内から温まるのを感じます。一煎目の香り、二煎目の味、時間をかけて味わうとお茶の味の変化にも気が付き、中国茶の楽しみ方をほんの少し分かった様な気がしました。

うたん型の鎖が。なんとこの鎖、藩政時代に北上川に架かっていた「新山舟橋」(現在の明治橋の近く)の、舟と舟を結んだ鎖だと伝えられています。

中国茶館 時の形見 営業時間：11時～19時/不定休
 菜園一丁目2-11 電話：019-625-2688
 お茶の他に「点心」や中国のお菓子などのセットも。



盛岡ガスからのお知らせです

移動展示カーでお伺い致します

弊社では、お客さまに最新のガス器具を体感して頂くために、移動展示カーを導入致しました。

搭載しているガス器具は、人気のガラストップコンロ、ガス温水熱源機およびこの温水を利用した床暖房・浴室暖房乾燥機です。

電話一本で、お客さまのお宅へお伺いします。どうぞご利用ください。

移動展示カーに関するお問い合わせ先

盛岡ガス株式会社 営業課 電話 **019-653-8331** (8:30~17:10)



凍結による、湯沸器・ふろがま・給湯器の破損にご注意ください

ガス安全検査にお伺いします

ガスをより安全に、安心してお使いいただくため、盛岡ガスでは盛岡ガスサービスに委託して、定期的にお客さまのガス設備、ガス器具等の検査にお伺いしています。検査作業は15分程度ですので、ご協力をお願いします。

※この検査で料金をいただくことはありません。



●平成18年1月から18年5月の検査地区(予定)

- 1月 中央通一～三丁目・内丸
- 2月 大沢川原一～三丁目・菜園一、二丁目
- 3月 開運橋通・大通一～三丁目
- 4月 長田町・材木町・東山一丁目
- 5月 山岸一～四丁目

ガス安全検査に関するお問い合わせ先 盛岡ガスサービス株式会社 電話 **019-621-7701**

もりおが瓦斯ものがたり



冬枯れの黄昏時、盛岡の北松園にある公園の「ガス灯」を訪ねてみました。そこは北松園の中心、整然と立ち並ぶ住宅地の中に、ゆったりとした敷地をとって造られた一角。大型スーパーや小学校の側ですので、車も人の通りもあるのですが、それでも街中のせわしさはなく、犬を連れて人や買い物物に入ったカートを押して歩く人が行き交う、落ち着いた暮らしのたたずまいを感じさせる静かな公園でした。

細長い公園には、ベンチや植え込みをはさみ、アンティーク風な鋳物のガス灯がら基、まっすぐ一列に並んでいます。ガス灯の灯りは、電気とは比べ物にならないほどほのかで、ちよっと寂しげですが、白い強烈な光と違った温かさを感じます。

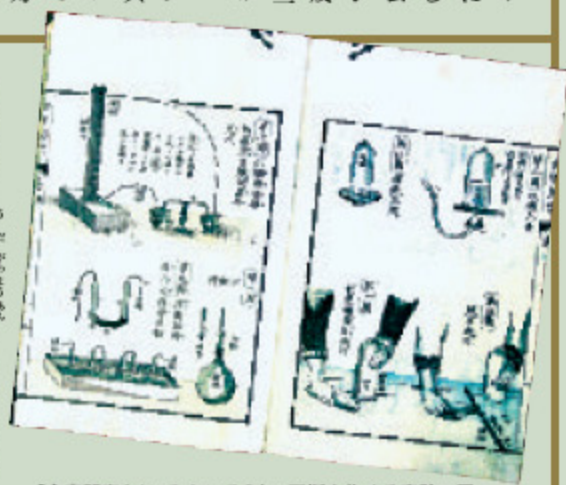
昭和四十五年、岩手国体が開催された年に、東北最大規模の団地として造成された「松園ニュータウン」は、その後北側の「小鳥沢」という愛らしい地名を持つ地域を開発造成し「サントウン

松園」グリーンパーク小鳥沢」と、更に広がっていきました。この北松園公園のガス灯は、「サントウン松園」の造成を機に、昭和六十三年に盛岡ガスが設置しました。真新しいニュータウンも、年月と共に街の歴史を紡いでいきます。その

頃には、このガス灯の少し懐かしい灯りが、きつとこの街となじんでいることでしょう。

ところで、何故ガス灯はレトロなイメージがあるのでしょうか？日本に於けるガス事業が明治に始まったものだから？ということは日本人は明治（一八六八年）になって初めてガスというものを知ったのでしょうか？

ところが、調べてみると明治より更に昔の天保八年（一八三七）の書物に、既に「瓦斯」という文字が見えるのです。それは、大垣藩（現在の岐阜県）



「舎密開宗(せいかいそう)」瓦斯を集める実験の図
中国経由でもたらされた蘭学書のためか、袖の模様が中国風



そしてこの「舎密開宗」という本は、このコーナーに毎回登場する、日本の製鉄、そしてガスの父、南部藩士大島高任など、当時の科学者や技術者に影響を与えたと言われる、教科書的なものだったのです。

の蘭学者、宇田川榕菴が刊行した科学訳書「舎密開宗」の中。「捕聚瓦斯」(ガスを捕集集めること)という一項目を設け、日本にガスの存在とその作り方を紹介しているのです。「舎密」とはオランダ語のシェミー (chemie) の音訳、つまり英語でいうとケミストリー (chemistry)、化学の事です。この他にも榕菴は日本にコーヒーやオランダカルタ(トランプ)を紹介した人としても知られています。ガス灯やコーヒーがなんとなくレトロでしやれたイメージがあるのは、このように江戸時代の最先端のものが現代に伝えられているという歴史があるからなのかもしれません。

楽しい街の探偵団



石割梅

天神様といえば「梅」。梅を生涯愛でた菅原道真公に因み、盛岡天満宮の境内にも有名な「飛梅」をはじめとした梅の木が植えられています。その中に盛岡らしい梅の木が一本。なんと「石割梅」ならぬ「石割梅」！石割梅ほどの迫力はありませんが、確かに梅の木が石の割れ目からしっかりと育っています。言公の力は石をも割るということなのでしょう。受験生の皆さんは、この梅にも手を合わせておいた方がいいかも。

さて、今年は戌年。盛岡天満宮のもう一つの名物、俺は生まれてから未だ世の中といふものが西にあるのか東にあるか知らないのだ、と云った様な顔だ。(小説「弄列」と豚木も言う、キュートな「狛犬」さんが人気を集めそうな予感。



啄木が「石馬」と録んだ狛犬



付け合わせには、天ぷら・にしんの煮付け(共に367円)・ゲソ天(210円)などが、ゲソ天の柔らかさにはびっくり！お値段も良心的。

炎のヒロに聞く エンピツメイ・クッキンゲン

賢治の清水を活かした手打ち蕎麦の味 やまや

大沢川原の下の橋たもと、手打ちそばの「やまや」は、宮沢賢治が大正六年から三年間、盛岡高等農林時代に下宿していたという「玉井家」のあった場所にあります。隣には、詩碑「ちゃんちゃんがうまこ」のある「賢治清水」、店の裏手には「賢治の井戸」。

今年の四月にリニューアルしたばかりの店内は木の香りが漂い、とても明るい雰囲気です。先客のそばをすすめるおいしそうな音に負けて、まず注文。「やまや」のそばは粉の種類別に三種。そばの実を丸ごと挽いた「挽きぐるみ」、実の中心部15%だけを使った「さらしな」、中国大陸原産で苦みに特徴がある「だったんそば」。この三

種を「もり」でいただきました。それぞれに個性がありますが、腰の強さと香りの高さは「打ちたて、ゆでたて」ならではおしいし。そして冷水できりっとしまり、どこしも素晴らしい！つけ汁もそばと相性ぴったり。日本人に生まれて良かった、と思える瞬間です。

全ての蕎麦を打つ、店主の赤澤正則さんにお話を聞きました。「私は三代目ですが、そば打ちはほとんど独学です。いろいろな所のそばを見て、食べて勉強しました。そば好きのお客様は厳しい方が多いですから、リニューアルを機にそば本来の味で勝負したくてこういう店にしました。」いかにも真面目な職人の面立ちをした正則さんの言葉には、そばへの強い愛情とこだわりが感じられます。さすが三代目、職人の血でしょうかと？と言いかけた時、「まんつ、ここさおかけんせ。」素敵な盛岡弁に振り向くと、そこには正則さんのお母様、先代の奥様のミツエさん。「この店の古いことですが、私がお話ししやんすよ。」



そば打ちの体験もできます。この日はお二人が体験中。赤澤さんの丁寧な指導で見事に完成！(体験日についてはご相談下さいとのこと)



おいしさの決め手はゆで加減。沸騰した湯にそばを入れ、再沸騰するまでの時間が短いほど、しゃきとした味わいに。高カロリーーのガスが威力を発揮！

先代の時分は、日本も高度成長期。「やまや」も出前と店の切り盛りで、数をこなすことが求められた時代でした。そばもやっていたのですが、その頃は機械打ちのものが主流。「今は時代が変わりやんしたなつす。

息子の作る手打ちのそばを喜ぶお客さんが増えあんだ。」豊かさが一段落した現代では、そばだけでなく、酒、米、お茶など、日常生活の基本となる食品に、ごまかしのない本物の味が求められています。特にそばは東北、岩手の誇れる特産品。その本当の美味しさを伝えることのできる作り手がいて、そしてそれを受け止め、誇りに思える地元の人がいることが、何よりも大切な事なのです。

「やまや」ではそば作りの水にも、水道水ではなく賢治清水を使っています。「水はそばにはとても重要なもの。たつぷりと賢治に使っています。つゆを作るのも賢治清水ですよ。」「そういえば、宮沢家のご縁は、ここに賢治が住んでいたというだけではないとか。」「そうでがんすよ。」とミツエさん。「賢治さんの父親、政次郎さんの姉のヤギは、この正則の曾祖母にあたりやんすの。」大正十二年、「やまや」は賢治が下宿を出て三年後の創業。共に下宿していた弟の清六さんも、生前「やまや」に来ては、ミツエさんに思い出話をしていたとか。賢治も歩いたお城に続く道はすっかり冬の気配。「やまや」のそばは、このきりりとした冬の盛岡によく似合います。



■プレゼント

ここでご紹介した「やまや」さんのお食事券(2000円分)を5名の方に差し上げます。ご希望の方は、住所・氏名・年齢と盛岡ガス通信「フランメ」の感想をご記入の上、下記「盛岡ガス株式会社 フランメ編集部」あてハガキまたはファックスでご応募下さい。皆様のご応募をお待ちしております。
・応募締切：平成18年1月31日(火)
・抽選・当選発表：応募締切後、厳正な抽選の上当選者を決定し、商品の発送をもって発表とさせていただきます。

flamme 第5号 盛岡ガス通信

平成18年1月1日発行
発行 盛岡ガス株式会社 フランメ編集部
〒020-0066 盛岡市上田二丁目19-56
TEL019-653-1241(代表) FAX019-653-3335
次回発行予定は5月です。お楽しみに。

「やまや」

- 盛岡市大沢川原1-1-16
- 電話：019-652-0808
- 定休日：日祝日
- 営業時間：11時～20時まで
- もりそば・冷かけ・かけ367円
- 牡蠣そば・つけ鴨そば945円
- おやこめし367円
- とろろごはん210円など
- 宴会：16名まで
- (予算・内容は応相談、そば付)